



◀細いテープ状の紙(写真左)を、独自の水撚り製法で仕上げた糸が写真右。麻以上のハリ・コシを持ち、丸く均一のとれた滑らかな糸です。

▼創業は昭和2年。県内ではトップクラスの撚糸工場です。



力強い地場産業を目指し、
独自製法の和紙糸で活路を拓く

広島の力

シリーズ②⑩

備後撚糸株式会社

広島県東部は備後絣のふるさと。昔から繊維産業の盛んな地域です。繊維業は昭和の高度成長期まで日本経済の基盤を作り上げた花形輸出産業でしたが、70年以降オイルショックや円高によって逆風が吹きはじめ、80年以降は東南アジア諸国の安い労働力で生産された製品に押され、状況はさらに厳しくなりました。創業以来、繊維メーカーなどの元請けの注文を受け、綿糸や合成繊維の撚糸加工を手がけてきた備後撚糸株式会社でも、元請けの中国への生産移転などの影響を受け売上高が激減。同業者が次々に廃業する中で、衰退していく業界の中にただ安穩と身を任せてはダメだ、と光成社長は自社オリジナル製品の開発を決意しました。着目した素材は和紙。「『なぜば成る』で何ごとも懸命にやればやれぬことはない、と信じていました。ところがその信念が揺らぐくらい難しかった。2年間試行錯誤を繰り返し、ようやく辿りついたのが『水撚り製法』なんです」。



福山市芦田町福田872
従業員数/20名

光成猛社長



▼◀和紙糸と綿糸をミックスしたニット帽と100%和紙糸を使ったエレガントなベスト。



▶デニム生産では国内ナンバーワン企業の地元カイハラ株式会社と共に試作したデニムジャケット。見た目はほとんど変わりませんが、手にとってみるとすごく軽くて肌触りがいい! 薄手のものは通気性がよく、厚手のものは保温性がある優れた素材なのです。

